

高齢者ヘルパー 就業事例集

Vol. 9



名古屋市高齢者就業支援センター

名古屋市昭和区御器所通3丁目12番地の1

TEL: 842-4691 FAX: 842-4894

ホームページ: <http://www.bes-c.com/>

知識・経験ともに豊富な家事のプロ、そして責任感の強いヘルパー

みずもと かよこ
水本 佳代子さん（68歳）

所属 = 社団法人名古屋市シルバー人材センター 南部支部

主な仕事の内容 = 訪問介護

ホームヘルパーをはじめた動機 = 母を看っていて、大変だったが、様々な人にお世話になった。だから、自分も何か世の中のお役に立てればと思いホームヘルパー3級養成を修了し、ホームヘルパーの仕事をする。

水本さんは、もともとホームヘルパー3級養成を修了し、ホームヘルパーの仕事をしていましたが、もっと仕事に対する知識や技術を高めたいと思い、ホームヘルパー2級養成を2年半前に修了しました。

今回取材をさせていただいた利用者さんの馬場さんは、水本さんに、週に1回家事全般のお仕事をお願いしています。仕事の内容は決まっていますが、水本さんは、その日の天候や馬場さんの健康状態などに合わせて、臨機応変に家事をこなします。



家事をこなす水本さんの様子（利用者宅にて）

水本さんは長年の家事の経験をホームヘルパーの仕事で存分に活かし、現在は家事のプロとして、がんばっています。馬場さんは、水本さんの仕事ぶりをみて、大変信頼していて、安心して任せているそうです。

水本さんは、馬場さんのご自宅へ着くとすぐに、カーテンは開いているか、玄関があいているか、テレビがついているかなどを確認します。今日もお元気でいらっしゃるかと気になるそうです。

そして、「おはようございます。」と、訪問してすぐ馬場さんと顔を合わせた時に、馬場さんの健康状態を確認し、時には「病院へ行きますか。」と声をかけることもあるそうです。

水本さんは、「ホームヘルパーの仕事にやりがいをもっていることはもちろんですが、責任を感じて、仕事に取り組んでいる。」と言います。

取材を通して、水本さんは、真面目な方で、長年の知識や経験をホームヘルパーの仕事で、充分発揮しているように感じました。

仕事終了後に、ハイチーズ！

（奥：水本さん、手前：利用者さんの馬場さん）

（利用者宅にて）



初めての世界で、積極的に勉強しつづける男性ヘルパー

さわだ としひこ
澤田 俊彦さん(62歳)

所属 = 株式会社ユタカ

仕事の内容 = 障害のある児童・生徒の学校の送迎バス添乗補助

ホームヘルパーをはじめた動機 = 自分が住んでいる高齢者住宅で、安否確認にやって来る人の仕事が気になり、尋ねてみたら、ホームヘルパー2級の資格を持っているとのことだった。それで、ヘルパーの仕事をしたかった。

「まずは、子どもたちの名前を覚えること、そして児童・生徒さんの名前も呼んであいさつをすることを心がけました。」という澤田さんは、障害のある児童・生徒のスクールバスに添乗して、介助の補助をしています。

澤田さんはホームヘルパー2級の資格を取得して、就業先を探していたところ、男性のヘルパーの働く先は限られていると感じたそうです。それで、介護保険制度の訪問介護サービスよりも、現在の仕事は、男性が必要とされている仕事内容だと思い、すぐに勤めることになりました。

「障害のある子どものことは、ホームヘルパーの研修で学びましたが、不安でした。でも、少しずつ一人一人の特徴がよくわかってきました。そして、バスと一緒に乗車する先生や先輩の仕事振りから少しずつ学ばせてもらい、実践し、自信がついていったのだと思います。」と澤田さんは言います。

取材中、澤田さんの手元には、障害に関する本がありました。このように積極的に学ぶ澤田さんにとって、ホームヘルパー2級の資格を取得したことは、仕事への自信となり、介護や福祉への理解を一層深めることになったようです。

澤田さんは、この仕事を始めて4ヶ月。初めての経験が多く、新たな発見や、新たな視点が見つかり、仕事はとても充実していると言います。

学校がある時は、仕事があるので、健康管理に気を付けて、この仕事を続けていきたいと語る澤田さん。

取材をして、今までの仕事とは全く違う世界で、生き生きと働く様子をうかがうことができました。



取材した澤田さん



スクールバスへ添乗して、生徒を誘導している様子

ヘルパー2級養成講習について～担当者の視点から～

でもでもない、なりたい！！

当センターのホームヘルパー2級養成講習の受講生は、「健康な今、少しでも社会に役立ちたい！！」

「ヘルパーの資格でも取ろうかなあ」という人ではなく、「ヘルパーになりたい！！」と、目的意識を持った人たちが多いです。

シルバーブランドの確立

老いを何年か先の自分に重ねてみえてくるシルバー世代に、講習修了後に輝いて活躍してもらいたいと思っています。若い人にはない良さがあるはずです。それには、当センターの修了者は素敵だ！仕事ができる！！と思ってもらうことが大切だと思います。受講生の意欲に触発されて、シルバーブランドの確立を目指して、指導にはつい力が入ってしまいます。

記録の重視

講義が始まった頃は、講義の多さ、記録（レポート）の大変さに不安の受講者もいますが、必ず全員辞書を片手に最後はうまく書けるようになり、記録をする大切さを身に付けていきます。

笑顔でハツラツ

講習を修了した人たちが、よく訪ねてくれますが、イキイキとして利用者さんが「待ってくれている」、「ありがとう」の言葉を聞くのが、やりがいになっていると口を揃えて報告してくれます。

輝け老人力

若い人と利用者との架け橋役として、シルバー世代のヘルパーは不可欠な存在だと思います。少子高齢の時代に、シルバー世代の力を存分に発揮して、社会に貢献してもらいたいと願っています。